

RAILWAY JOURNAL 鉄道ジャーナル

1977・2 NO.120 Vol.11 NO.2

●昭和51年12月18日印刷

●昭和52年2月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

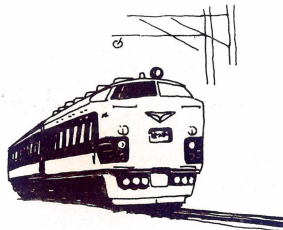
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



今日の「特急時代」を代表する2つの顔は新幹線と在来線エル特急であろう。特急列車の消長と戦後の発展については、社会情勢と利用者のニーズをどう受けとめ、これにこたえてきたか……前号と本号で国鉄旅客営業の立場から紹介されているが、特急を「群」として育て、利用しやすい列車とすることにより、需要にこたえたと同時に国鉄旅客輸送の柱としようとする姿勢が明確に現われている。今後は「量」から「質」への交換が課題となろうが、よくも悪くも今日の特急時代の象徴であるエル特急にスポットをあててみた。

ところで先日、テレビのモーニングショーで、国鉄の運賃値上げと企業としてのあり方について、出席の国鉄常務理事を評論家気どりのレギュラー・タレントが罵倒する一幕があった。一部のタレントの品の悪さ、質の低さに鬱塞した視聴者も多いと思うが、国鉄の当事者と大衆のあいだに横たわる断層の深さを、これほど浮彫りにした事件もめずらしいだろう。当日の議論のあり方や内容は別として、利用者大衆が「国鉄」をどのように見ているか、43万の国鉄マンはこの機会によく考えてほしいと思う。

1977-2 もくじ

- | | | |
|----|--------------------------|-----------|
| 7 | レールウェイ・レビュー | 合理的な鉄道旅行を |
| 8 | ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き) | |
| 14 | 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車) | |

特集●現代の主役 特急列車(続)

★カラー・グラフ

- 15 鉄路の花——特急電車・気動車
鼓動する大動脈／時速200キロの光芒／L特急

- 27 エル特急——その現状分析と考察

福田宏之／大島 肇
横江又洋／茂木 裕
編集部

- 38 国鉄の特急列車(後)

須田 寛

ドキュメント★列車追跡②

- 44 〈あさしお1号〉城崎ゆき

宮原正和／沖 勝則

★「名列車」誌上リバイバル⑬

- 52 〈はつかり〉ものがたり(前)

真船直樹

- 63 振子特急〈しなの〉運転日記

高木正己

RJ技術解説シリーズ

- 66 EF65のパラエティー

松田清宏

- 69 「時刻表」にのらない特急

種村直樹

- 79 夢多き世界の特急列車(2)

佐々木桔梗

- 90 若返る新幹線電車

大熊孝夫

- 92 車両とともに30年(2)

田邊幸雄

ライバル決戦③

- 98 君よ知るや 南のレーサーたち

野村 董

- 105 トップ・アングル

- 111 レールファン・ノートから⑬ わが青春の旅・1

本島三良

- 120 ヨーロッパの鉄道と旅⑬ イギリスの鉄道⑦

山之内秀一郎

●路面電車再発見⑭

- 127 路面電車の保存と利用

日本路面電車同好会

- 112 ブルー・トレイン
118

ワイドレンズ／新刊紹介／海外鉄道研究会コーナー／鉄道友の会だより
／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／
R Jクイグ／ジャーナル編集室／乗務員室／次号予告

表紙写真／上越エル特急くとき

越後湯沢ー越後中里 カメラ・R G G

定価530円 ㊦60円